

## 平成 29 年度岩手県障がい者スポーツ指導者協議会関連事業報告

### 1 主催事業

#### (1) 会議関係

##### ①役員会

日時：平成 29 年 7 月 24 日（月）18：30～20：00

会場：ふれあいランド岩手

出席者：11 名

##### ②定時総会

日時：平成 29 年 7 月 31 日（月）18：30～20：00

会場：ふれあいランド岩手

出席者：22 名

##### ③平成 29 年度障がい者スポーツ東北ブロック連絡協議会

日時：平成 29 年 9 月 4 日（月）

会場：山形テルサ

出席者：1 名

##### ④平成 29 年度障がい者スポーツ協会・指導者協議会・合同会議／障がい者スポーツ info2018

日時：平成 30 年 2 月 20 日（火）～21 日（水）

会場：ヒルトン東京お台場

出席者：1 名

#### (2) 事業関係

##### ①事業名：東北ブロック障がい者スポーツ指導者研修会

②日時：平成 30 年 2 月 24 日（土）10：20～15：00

③会場：ふれあいランド岩手・研修室

④参加者：46 名（20 名）

##### ⑤内容

第 1 部／基調講演（10：30～12：00）

◎講師：小淵 和也 氏／（公財）笹川スポーツ財団スポーツ政策研究所主任研究員  
『調査結果から見える障害者のスポーツ参加の障壁の実態と課題解決への方向性』

第 2 部／パネルディスカッション（13：00～15：00）

◎コーディネーター：及川 カ 氏／筑波技術大学名誉教授

パネリスト：

☆中島 昭博 氏／岩手県文化スポーツ部スポーツ振興課上席スポーツ振興専門員

☆板垣 敬重 氏／（一社）盛岡市総合型地域スポーツクラブ連絡協議会事務局長）

☆小野寺 留美 氏／（一社）一関市体育協会事務局次長兼事業係長

☆及川 貞之 氏／岩手県立花巻清風支援学校教員（岩手県選手団総監督）

☆兒玉 友 氏／日本福祉大学スポーツ科学部助教

◎コメント：地域での障がい者スポーツでの活動拠点作りをテーマに障がい者スポーツ振興のキーパーソンを県内外よりお招きし、基調講演とディスカッションを行った。



## 2 共催・後援・協力事業

### (1) 車椅子スポーツ導入&リーダー養成研修会

期日：平成 29 年 4 月 22 日（土）～23 日（土）

会場：盛岡市立乙部体育館（22 日）

ふれあいランド岩手（23 日）

講師：一般社団法人コ・イノベーション代表理事 橋本 大佑 氏 他

参加者：31 名（17 名/障がい者スポーツ指導員）

コメント：この研修会は、車椅子利用者に対するスポーツ導入方法を学ぶことを主な目的として開催。基本的な内容に加え、今後、地域においてスポーツ導入を安全かつ効果的に行うことができるリーダー養成を併せて行った。車椅子スキルアップ、スポーツ導入時の配慮事項、車椅子でのゲーム方法、障がい程度の違う参加者がいる場合のゲームの組立て方など、すべてが理にかなっており、現場で使えるヒント満載の研修会となった。リーダー養成研修には PT、OT 等のリハビリ専門職が数多く受講しており、2 日目には、早速、講師の補助を務めていた。



### (2) 県南地域卓球バレーユニバーサル大会

期日：平成 29 年 5 月 7 日（日）

会場：サンレック北上（北上市）

参加者：チーム 175 名、スタッフ 22 名（15 名）

コメント：今回の会場は北上市のサンレック北上。盛岡市以外では初めての大会開催であった。また、これも初めての試みであるが、参加資格は、障がいの有無を問わないバリアフリールールとした。この理由として、地域での開催は、比較的小規模の参加数を見込まれるため、バリアフリールールを適用することで福祉関係者と一般団体やスポーツ振興に携わる方々（スポーツ推進委員等）との参加交流を図りやすく、地域独自のスポーツ推進体制作りにも寄与したいという考えに基づく。



### (3) 第 19 回岩手県障がい者スポーツ大会

期日：平成 29 年 6 月 3 日（土）

会場：岩手県営運動公園、ふれあいランド岩手、盛岡スターレーン

参加者：選手 1,533 名、競技役員+スタッフ+ボランティア等 893 名（33 名）

コメント：昨年は、希望郷いわて大会のリハーサル大会として大会会場は、北上総合運動公園をはじめ、全国障害者スポーツ大会で使用する会場で行われた。今年は、例年の会場での実施となったが、ボウリング会場は旧会場の閉鎖に伴い、盛岡スターレーンが会場となった。当日の天気予報では雨の心配があったが、それほど降ることはなく、すべての競技が予定通り行われた。例年、一般公募で募集する大会サポーター心をつなぐパートナー（愛称：ココパト）には史上最多の 401 名の応募があった。選手 1,533 名、ココパトを含めた運営スタッフ 893 名、その他、引率職員や応援団などを含めると 3,000 以上の方々が参加した。



(4) 第1回卓球バレー指導者養成講習会

期日：平成29年7月1日（土）

会場：ふれあいランド岩手

参加者：参加者19名（6名）

コメント：今回の講習会は、岩手県作業療法士会の共催事業として開催。卓球バレーの障がい程度、年齢、性別を問わずに楽しめる競技特性をリハビリの現場にも活用しようという動きがある。受講者は作業療法士5名、スポーツ推進委員3名を含む24名であった。



(5) 希望郷いわてオープン2017・卓球バレー交流大会

期日：平成29年7月2日（日）

会場：ふれあいランド岩手・体育館

参加者：チーム165名、スタッフ27名（14名）

コメント：本大会は日本卓球バレー連盟東ブロック公認大会として実施。埼玉、秋田からの県外チームも2チーム参加した。また、ブロック公認大会は、上級審判の資格認定も可能な大会であり、今大会での審判実技検定において新たに1級審判1名、2級審判2名が合格した。



(6) 平成29年度初級障がい者スポーツ指導員養成講習会

期日：平成29年7月15日（土）～17日（月）

会場：ふれあいランド岩手

受講者：18名

コメント：実技では『アダプティブ運動教室』と題して、実際に知的発達・身体に障がいのあるお子さんを中心に参加者を集め、教室の中では受講生が参加者に運動を指導するという形式をとっている。この教室の全体監修はアダプティブワールドの齊藤直さん、全体のアテンドはアシスタントの川鍋亜美さんが行い、受講生は参加者とマンツーマンで指導を行った。知的・発達障がい児に対するもっとも効果的な指導方法は、一緒にやってみせることも重要であるため、受講生は参加者を楽しませるために必死に動き回っていた。



(7) ふれあいフライングディスク交流大会

期日：平成29年7月29日（土）

会場：ふれあいランド岩手

参加者：選手273名、審判・スタッフ128名  
合計401名（3名）

コメント：昨年まで岩手県手をつなぐ育成会（障がい者フライングディスク協会）が実施しており、障がい者スポーツ協会としての開催は初めてであった。また、手をつなぐ育成会は知的障がい者の親の会が母体であることから、当協会としては身体及び精神障がい者の関係団体にも周知を広げている。



(8) 第1回卓球バレー普及講習会

期日：平成29年8月6日(日)

会場：久慈市民体育館・会議室

参加者：26名(5名)

コメント：本年、4月に全国で初めてとなる地域での卓球バレー推進組織「久慈地域卓球バレー協会」が設立された。参加者20名ほどの方々が卓球バレーを体験。後半には久慈市の遠藤市長も参加して大いに盛り上がりました。



(9) 八幡平障がい者登山交流会

期日：平成29年8月20日(日)

会場：八幡平

参加者：25名(4名)

コメント：この事業の一番の目玉は、アウトドア用車いす(電動アシスト型)を使用して登山者自身+サポーター+電気の力の三位一体となり、山頂を目指すところ。心配された天気も回復し、比較的恵まれた気象条件での登山となりました。ガイドは今回も岩手県山岳協会と翌檜山岳会の皆さんに務めていただきました。



(10) 第2回卓球バレー指導者養成講習会

期日：平成29年9月3日(日)

会場：大船渡市民体育館

参加者：22名(4名)

コメント：大船渡市では9月30日に行われる高齢者スポーツ大会において卓球バレーを初めて採用。今回は、指導や審判を務めるスポーツ推進委員を対象とした卓球バレーの事前研修であったが、せっくなので卓球バレー指導員資格取得講習として行った。実技では、大船渡市身体障がい者協会の皆さんにご協力をいただいた。



(11) 第17回全国障害者スポーツ大会強化合宿

期日：平成29年9月23日(土)~24日(日)

練習会場：ふれあいランド岩手、盛岡スターレーン

宿泊会場：ホテルシティプラザ北上

参加者：23日/98名(15名)・24日/105名(14名)

コメント：10月に行われる第17回全国障害者スポーツ大会・愛顔つなぐえひめ大会の個人競技に出場する選手の強化合宿を2日間に渡り、実施。天候に恵まれ、この時期としては暑いぐらいの恵まれた条件の中で、各競技指導者の協力の下に充実した練習会となった。



(12) 車いすレーサー競技者養成講習会

期日：平成 29 年 10 月 22 日（日）

会場：ふれあいランド岩手（悪天候のため花巻市・日居城野陸上競技場より変更）

参加者：15 名（6 名）

コメント：

当日は、台風接近とともに雨、風が強くなり、急きょ会場をふれあいランド岩手に変更して実施することになった。講師には一般社団法人チャレンジドアスリート協会会長・千葉 祇暉（まさあき）氏をお招きした。

講習内容であるが、午前中は講義形式、午後は競技場の軒下の限定的なスペースではあったが実技を行った。また、最後にはグローブの製作方法も学んだ。



(13) 第 17 回全国障害者スポーツ大会「愛顔つなぐえひめ大会」派遣事業

①派遣日程 平成 29 年 10 月 26 日（木）～10 月 31 日（火）

②開催場所 愛媛県（松山市、松前町、伊予市、今治市、西条市、東温市、砥部町）

③参加者数 151 名／選手 89 名、役員 62 名（37 名）

→個人競技 101 名（選手 51 名、役員 50 名）

→団体競技 50 名（選手 38 名、役員 12 名）

④出場種目 個人競技（陸上、水泳、卓球、アーチェリー、フライングディスク、ボウリング）  
団体競技（フットベースボール、グランドソフトボール）

⑤コメント：10 月 28 日～30 日に開催された「愛顔（えがお）つなぐえひめ大会」に個人競技 101 名（選手 51 名、役員 50 名）、団体競技 50 名（選手 38 名、役員 12 名）の合計 152 名の選手団で参加。大会期間中、台風 22 号の影響により、一部競技が中止または日程変更となったが、選手は自己記録の更新を目指して競技に取り組んだ。結果は、金メダル 8 個、銀メダル 10 個、銅メダル 15 個（団体含む）の計 33 個のメダルを獲得しました。体調管理など難しい条件であったが、各競技の指導者や実施本部員、サポートボランティアの皆さんのご協力により、選手たちは十分に力を発揮することができた。大会史上初めての台風直撃もあり、大会運営側のご苦労も大きかっただろう。なお、本県選手団の移動手段は新幹線にて盛岡～福山まで。福山からはバスにて 3 時間。朝 8 時の集合から約 11 時間かけての長旅となりました。唯一の観光？である「バスからしまなみ海道を眺めるツアー」は、行きは暗くなってしまい、良く見えませんでした。帰りは瀬戸内海の絶景を眺めることができました。



#### (14) パラリーナカップ・卓球バレー交流大会

期日：平成 29 年 11 月 5 日（日）

会場：岩手県勤労身体障がい者体育館（愛称：パラリーナ）

参加者：チーム 84 名＋スタッフ 18 名（15 名）＝102 名

コメント：同体育館の創立 40 周年記念事業として開催。本大会にはチャレンジクラスに 10 チーム、わんこクラスに 2 チームの合計 12 チームが参加しました。今回のルールは、健常者も制限なく参加できる「オールフリールール」を採用し、熱気あふれる大会となった。



#### (15) 卓球バレー宮古交流大会 2017

期日：平成 29 年 11 月 23 日（木）

会場：宮古市民総合体育館（シーアリーナ）

参加者：チーム 71 名＋スタッフ 12 名（7 名）

コメント：沿岸地区では初めての卓球バレー大会でしたが、地元の宮古市、山田町に加え、盛岡市、久慈市、北上市、金ヶ崎町などから 10 チームが集い、大いに盛り上がりを見せた。



#### (16) ジャパンスポーツフェスタ

日時：平成 29 年 11 月 11 日（土）12：30～16：30

会場：ふれあいランド岩手・体育館

参加者：体験 85 名、スタッフ他 56 名（13 名）＝141 名

コメント：日本のスポーツを統括する 3 つの組織が協同する全国初開催の事業であった。本県における 3 組織とは岩手県体育協会と岩手県障がい者スポーツ協会に集約される。蓋を開けてみると参加者集めが課題であることが判明。結論からいうと県体協、障スポ協のネットワークをフル活用して事なきを得たのだが、動き出しからこの「フル活用」までの効率化とスピード感が重要であり、今後、縦割り撤廃による様々な横のつながりを用いた連携事業に大きなヒントとなることであろう。参加者は、スポーツ少年団に所属する小学生から 70 歳の方までバラエティに富んだ構成である。

主な内容は、アクティブチャイルドプログラム、女子シッティングバレーボール日本代表による競技体験、オリパラ選手によるトークショーの他、障がい者スポーツに関する展示コーナーを設置。

これをきっかけにして、岩手からもオリンピック・パラリンピック選手が生まれることを期待したい。今回は全国版として実施したが、岩手県版を企画しても面白いと思う。県体協と連携した事業としては、企画してみたいと思う。



#### (17) 第 3 回卓球バレー指導者養成講習会

日時：平成 29 年 12 月 16 日（土）10：00～15：00

会場：ふれあいランド岩手・第 2 卓球室

参加者：16 名（2 名）

コメント：講師には大分県・太陽の家の堀川裕二さんをお招きした。平成 24 年 1 月に堀川さんによって県内で初めて紹介された卓球バレーは、あっという間に県内に広まった。なお、今回の講習で県内の卓球バレー指導員数は 200 名を超えた。



### (18) ボッチャ普及員養成講習会

日時：平成 29 年 12 月 17 日（日）／午前・午後の 2 回実施

会場：一関市武道館

受講者：18 名（10 名）

コメント：日本ボッチャ協会の基準カリキュラムが変わり、2 時間程度の講習会で資格取得できるようになった。ボッチャ競技は平成 33 年から全国障害者スポーツ大会の正式種目となるため、各県において普及活動と競技運営の準備が必要となる。講師には、日本ボッチャ協会強化部長兼普及部長である村上光輝さんをお招きした。



### (19) 中級障がい者スポーツ指導員養成講習会（兼フォローアップ研修会）

期日：平成 30 年 1 月 13 日（土）～14 日（日）、20 日（土）～21 日（日）

平成 30 年 3 月 10 日（土）～11 日（日）、17 日（土）～18 日（日）

会場：ふれあいランド岩手

受講者：中級 10 名+フォローアップ研修他 14 名（5 名）=24 名

コメント：受講者は、スポーツ推進委員、NPO で活動されている方、障がい者事業所の職員、理学療法士、作業療法士等、立場は様々ですが、障がい者スポーツ導入への意識が高く、積極的に情報交換を行っていた。



### (20) 卓球バレー&ボッチャ普及講習会

日時：平成 30 年 1 月 17 日（水）

会場：一関市総合体育館（サブアリーナ）

コメント：今回は、卓球バレーに加えて、ボッチャの体験会も実施。参加者は地元、一関市身体障害者福祉協議会や市内の事業所から約 40 名が集まった。卓球バレー指導では、公認 1 級審判員が中心となり、金ヶ崎町身体障害者福祉協会の皆さんにお手伝いをいただきながら、交流試合を中心に行った。ボッチャではミニコートを使用し、ゲーム性の高いボッチャ競技の特徴を体験していただいた。



### (21) 障がい者スキー交流会 2018

期日：平成 30 年 2 月 17 日（土）～18 日（日）

会場：安比高原スキー場

宿泊：ホテル安比グランド本館、ホテル安比ヒルズ白樺の森 1

参加者：体験 52 名+講師・ボランティア・事務局等 20 名（12 名）=72 名

コメント：今回も公益社団法人日本プロスキー教師協会（以下、SIA）、岩手チェアスキークラブの全面協力の下に開催。SIA は全国的にも珍しい障がいのある方々へのスキー指導をプロとして行っている団体で 12 名の障がい者スキー認定講師を派遣していただいた。17 日（土）は、盛岡市立河

北小学校の児童や教師、保護者らを対象として体験会。18日（日）は、さらに多くの参加者とともに、チェアスキー、バイスキー、立位スキーに分かれてスキーのレッスンを行った。両日とも吹雪の中での講習であったが、自然豊かな安比のスキー場の素晴らしさを体験することができた。



## （22）障がい者スポーツ特別研修会

テーマ：誰もが当たり前前にスポーツを楽しむことができる社会の実現に向けて

日時：平成30年3月3日（土）10：30～15：00

会場：ふれあいランド岩手・ふれあいホール

基調講演講師：ホルスト・ストローケンデル氏

コーディネーター：野村 一路氏（日本体育大学体育学部教授）

パネリスト：兒玉 友氏（日本福祉大学スポーツ科学部助教）

堀川 裕二氏（日本卓球バレー連盟副会長・普及委員長）

橋本 大佑氏（一般社団法人コ・イノベーション代表理事）

坪松 博之氏（サントリーホールディングス株式会社 CSR 推進部部長）

伊藤 雅人氏（一般社団法人まるごと陸前高田理事）

通訳アシスタント：岡田 美優氏（福島大学）

参加者：90名（32名）

コメント：講師はドイツからホルスト・ストローケンデル氏をお招きした。同氏は、車いすバスケットボールのクラス分けのシステムを提唱し、その考えが様々なスポーツのクラス分けの基礎となり、競技スポーツの発展に寄与した権威である。講演では、障がいのある方々にとって、スポーツがいかに重要な役割を果たしてきたかを障がい者スポーツの歴史と合わせて説明いただいた。後半のパネルディスカッションでは、様々な課題や解決の方向性について意見交換を行い、誰もが当たり前前にスポーツを楽しむためには「共生社会」という考え方はとても重要であり、障がいのある方だけではなく、年齢・性別を問わずすべての方が含まれていること。そして、一方的な支援だけではなく、行政、企業、非営利団体等が共に置かれている立場を理解することから始め、共に支え合うためにどのような行動するかなど多くの示唆に富んだ内容となった。



平成 29年度収支決算書  
(自H29. 4. 1～至H30. 3. 31)

## 1 収入

単位:円

区 分	予 算 額	決 算 額	増 減	摘 要
会 費 収 入	150,000	112,000	△ 38,000	会員数110名×1,000円+H28年1名分+H30年1名分
還付金収入	228,800	212,960	△ 15,840	岩手県の指導員登録者数 242名×1,100円×80%
助 成 金	350,000	370,000	20,000	東北ブロック 障がい者スポーツ連絡協議会より
雑 収 入	109	3	△ 106	貯金利子
繰 越 金	362,091	362,091	0	前年度繰越金
合 計	1,091,000	1,057,054	△ 33,946	

## 2 支出

単位:円

区 分	予 算 額	決 算 額	増 減	摘 要
会 議 費	30,000	13,000	17,000	役員会経費
事 業 費	400,000	310,600	89,400	東北ブロック障がい者スポーツ研修会講師謝礼 研修会受付日当、出張旅費等
印刷製本費	100,000	151,660	△ 51,660	封筒代、印刷代
通 信 費	150,000	163,982	△ 13,982	メール便送料、切手代
事 務 費	10,000	3,598	6,402	振込手数料、領収証、はんこ代
登 録 費	5,000	5,000	0	東北ブロック障がい者スポーツ連絡協議会年会費
予 備 費	396,000	0	396,000	予備費支出はなし
合 計	1,091,000	647,840	443,160	

収入総額 1,057,054 - 支出総額 647,840 = 409,214 (次年度への繰越金)

## 会計監査報告

平成29年度の会計帳簿等を監査した結果、適正に処理されていることを認めます。

平成30年8月23日

監事

吉田 金一 ㊟

山本 峯可 ㊟